

### Data Sheet-Computer Index について

田中茂也 (日本原子力研究所)

核データ・グループの仕事の一つとして、核データを一定のフォームのデータ・シートに記入するという方法で、核データの compilation を行なっている。その量が最近非常に増加して来

たので、それを整理し、更に利用し易いように、データ・シートに計算機を用いて索引をつけることにした。

この作業は次のようなプロセスで行なわれる。すなわち、データ・シートの記入者はシートへの記入と同時に、その索引を **Computer index** の記入用紙にも記入する。整理班がデータ・シートを整理・ファイルするときこれを磁気テープに **store** しておく。利用者は必要に応じて、自分の要求する範囲のデータを **sort out** させる。勿論 **sort** の他に **store** された全索引を **output** させることも出来る。

この **index** の **input format** は次の項目から成っている。「**Incident particle** の種類」, 「**Target Nucleus** の種類」, 「文献名, 巻, ページおよび発表の年」, 「研究の行なわれた **Laboratory** および実験に用いた装置」, 「**Energy Range**」, 「**Key Words**」, 「記入者の **identification**」, 「**Data Sheet** との対応のための **Reference**」, 「文献に対する **Reference**」, 「**Private** (記入者が任意に記入してよい)」, 「データ・シートが完全に記入されているか否か」, 「カードに **continuation** があるか否か」。 **Key Word** はデータ・シートにもつけられているもので、「反応のタイプ」, 「測定された量の種類」, 「**deduce** された量の種類」および「実験か理論か」の区別から成っている。記入者は随意に「コメント」をこの欄に記入することが出来る。上記の項目の内 5 番目の「**Energy Range**」までの項目は「実験に用いた装置」を除いてほとんど **CINDA** の **entry** と同様な記入法によっている。実験に用いた装置は記入者が適当に **abbreviated spell** で装置を記入しなければならない。「**Key Words**」の記入法はデータ・シートの **Key Words** に付けられた番号を記入するという方法を採用している。若しデータ・シートに該当する **Key Word** がなかった場合には記入者が英数字 8 字以下の範囲で記入する。

磁気テープに **store** された **index** の内から、利用者が希望する範囲の **index** を **sort** したい場合には、上記の **input** のときと同じ **format** で、**sort** したい項目だけをカードに **punch** して計算機にかける。**sort** は **input** のときの 9 項目の内「記入者の **identification**」を除いた凡ての項目について可能である。

**sort** によって **output** される **index** は利用者により可成り読み易い形になっている。例えば「**Target Nucleus**」については原子番号が附加される。「文献名」は **full spell** またはそれに近い形になって出て来る。「**Key Words**」については入力するとき番号であったものは、例えば (n, p) のような表わし方か或は読み易い **abbreviated spell** で **output** される。

現在、この作業は開始されたばかりなので、storeされているindexの量は非常に少ないが、将来indexの量が増加すれば、データシート利用のためにも、またComputer index単独でも可成り便利なものになると期待される。

☆☆☆☆☆☆☆☆